



洋々集
上
梅若

特別
千12
3643
46(1)



洋一果有決物一

一 抑 也書シハ

何の事かを云ふと云ふ事ハ
抑 也書シハ
抑 也書シハ

抑 也書シハ
抑 也書シハ
抑 也書シハ

抑 也書シハ





序

遠くハ天樂音樂神樂等ハ調てん或ハ射湊しやう等哉やめ
 又近き世乃俳こが優をま尔玉たまふままとと惣そう々々藝ぎ云いの快こころよくささえつ
 ともえいいしたふ哉やハ人ひとハ禮れいをを褒ほめてやううくといいへり此詞の
 根元もとハ論語亦洋々乎盈耳哉といいふふり據よままは
 どの歎なげ今いま粵ごうにいいささか著あるる不ふの謡曲乃書と事ことハ
 精せいきをを得とせしめ又また後のち者をととししてて賞ほめふふやううくとと賞ほめ

世俗ほむ變調へんてう
 ややくといいは
 此やううととよよこ
 さまさるるものもの

さしめんと欲はるはも^揃どて也又此曲規矩準繩
の多く備はるはも^{そふ}を^か斯^立ははるに^さ分ち^あ奉^げさふハ
測^そ量^{かり}を^ます^ぬ大^{たい}洋^{やう}より^ややく^ひ拾^{ひろ}ひ^あ集^あめ^める^はら^ち
は^まる^と乃^なも^う意^い成^{じやう}義^ぎ併^あを^そ洋^{やう}集^あと^い名^な付^づぬ
時ハ文久よりあの年ハ八月建部満季より^ち志^ち以

洋々集卷之上

末乃世尔家を一嗣む子等々を

述^規しぬは里の道いきそは

楷 満季

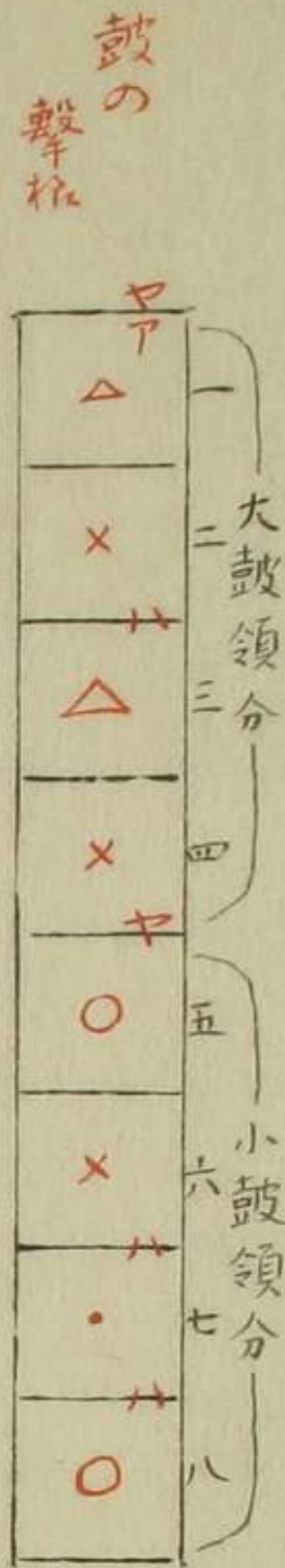
夫亂舞は謡ハ歌道より出さはるなりそ^志調^あを^あ同^あく
且^{かつ}其^{その}情^{じやう}を^の述^のて^は是^こに^は通^と達^{たつ}せ^しむ^るに^は專^も曲^{くわく}成^{じやう}を^あ
旨^むと^し又^{また}正^{ただ}きを^た祈^{いの}と^して^は我^{われ}朝^{あそ}の^の禮^{れい}樂^{がく}を^あ備^そは^らぬ
高貴^{かう}は^らんと^して^は成^{じやう}弄^{りやう}成^{じやう}せ^しる^は庶^{しよ}人^{にん}も^も尋^{たづ}ね^るこ^の終^{しやう}也

執心以之施を亦尔放多也種々多量其秘曲を形せる
規矩準繩有りて悉拍子の格式之まり之是成職は
亦乃音曲者として其曲の曲と係所以尔闇く將之立する
拍子の格式を辨へ以不為尔他より問るれ在即答はる中
能く或ハ自身に不審其疑惑を生し是成紀明せんと
欲を其早速尔考へ得多事能ハ我道尔暗きハ無念乃
次弟也依く今を一端大海の一滴を述く以て是成發
明せしめんと欲は 蓋秘傳と云ふれども其
とある故尔書記せし
上卷尔拍子其起を明し隨て拍子り合はる謡の運

動やう種々成舉て悉皆出と係事を知りぬ次尔謡と
鼓との君臣成端し次り拍子其規矩さふ八通り乃
訣合を分明尔は こけあひ
中卷尔ハ謡の文字運動其 もちあひ 持合乃口甲成
細密り分ち
下卷尔ハ稀な係節博士成くさぐさ集め又拍子其業松尔
極其温厚る心得の極意を明し最末り玉て曲を
亦尔其と別と乃差別ある心得を分明尔はまづ
最初尔拍子の起を述

拍子起

隨く曲といへば意味之事



× 鼓の拍子外して
うらぬき也
○ 息遣の字也

謡の配

まを△は×いめ△の○たびころも○け△を×まはる○よめくた○

七文字を上句とし 五文字を下句とし

右の圖畫尔載とは如く拍子の數 八ツ哉

一ツサリと定め是尔謡のいまをはしめめたいころもといふ文字數
十二を一句として配合せとほを本地と名付て拍子起根本とい

是が則曲をふの礎也 抑此八の拍子ハ是天地陰陽乃
理より出くおのつらむらむは下の八數尔して更り
人間の所造尔は是尔七文字五文字十二段配合をて
一ツサリと定めとほを七五七五と移ぎゆ希此調ハ即我朝の
長歌也且謡の文句を和歌其詞を以て綴り依り謡ハ
歌道より出くといへば此謂也又此八の數其事訣合
抑し何ぞ所謂八卦八方八音八虐八陣八門遁甲
八苦八相成道等哉始とて八數を基とほる説舉尔惶
あはれ諸書尔載されハ今此尔省畧して 抑此八乃拍子を

謡のとありていづく初の四男拍子後の四女拍子ありて
 陰陽和合也又此七五一トサリ其調を以て一年に配當
 され其初の七文字ハ春夏其日の如く延く緩也後の五文
 字ハ秋を其日の如く縮了る急也年成一事と事ト事ト
 畫は事其きう如くは拍子と亦斯其如く畫藏不變の
 拍子也天地の開け始又終を知り其きう如く此拍子を
 亦復も始終を畫は事なり依て前事と述は如く是
 天地自然の拍子ありて文り人間の所造るははるさゆ也
 是を本有は本地と互て謡曲の規矩とあり然るにそれの
 趣さる隨ひ一句の字数七五其にハ限るはあのはるさゆ
 の出来はとの也さる多か其も短何ふ成と或ハ又文字数ハ
 多か其も短なく其節博士の付格あるはるさゆみ字が出来て
 添は也そまを加ふハ文字其分多分にはは事あり
 延斯の如き不同ありて視るハ拍子の規矩合せんが
 為る文字乃運を屈伸輕重其緩急成以て曲をなは也
 其曲の曲とは曲成いづく長か其成ハ輕く急る屈よせ
 其短か其をハ重く緩やりに伸ふ
 たとハバ

可也事也此扱あつひの中縦こよひ文字ハ不足あり其拍子の定規を
 破やぶり居をえるも不足は分て緩伸の文字運うごひを以て本有の
 拍子に合は斯これを拍子跨こといふ也碎ハ有情非情のこも受て其
 哥うたにも合は事なり形どいへは文句は七四八四と文字は番つがへり
 是を強ちいく本有七五の数字あかさんと欲して文字を加へ或ハ
 減くじ形どして有情非情のこも受て哥うたも合は事なり形ど
 せば本有平等は拍子と成へる事と何とやらんて其をはよめ
 かく依りてやもり本文はかくの文字番ばんふて調しらべひ格乃配くわいを以て
 本有の拍子に合せしむる扱あつひ今試こころし是をいふとていふ可

下腹より強く息はまは自然と開かひ合あひ重く形りて文字が居をは也
 扱あつひの声といふ所息を緩むまはそれをつまて文字と伸のびは也
 此伸のびと合あひ急いそといふ二ふたの間あひと比ひの二ふた文字と其二ふた所ところへ鼓うたの勢いきほ
 千ちホ拍子は強し
此声といふ所の如く息合を緩め文字を伸く以て
拍子に合はるる持合といふは後に記す所也 斯これ乃すなはかく
 息を強ちいく拍子跨こてこ形哥うたも合はと文句を強ちいく事なりと
 いふ四文字と其文字は持合伸のびて以て五文字は分量とふは

○ 有情非情のこも受て其拍子の定規を破やぶり居をえるも不足は分て緩伸の文字運うごひを以て本有の拍子に合は斯これを拍子跨こといふ也碎ハ有情非情のこも受て其哥うたにも合は事なり形どいへは文句は七四八四と文字は番つがへり是を強ちいく本有七五の数字あかさんと欲して文字を加へ或ハ減くじ形どして有情非情のこも受て哥うたも合は事なり形どせば本有平等は拍子と成へる事と何とやらんて其をはよめかく依りてやもり本文はかくの文字番ばんふて調しらべひ格乃配くわいを以て本有の拍子に合せしむる扱あつひ今試こころし是をいふとていふ可

斯の如く是が即曲といふ事なり也

化して無量ある八通の事有へかゝり右の樂し一二戦以て
海を八采心准^{おんち}えん^ん一

又一句初^{つひめ}六文字ありて一字不足を大鼓のヤ声をも
たとひ用ひて本地、間尔^{まに}諷い出^まし跨^{また}伸^{のび}く持合はる事
稀^{まれ}あることあり

- 内思ひハまさ程と母
- 宮封^{みやふう}とてさ記ある
- 栄むハ是喜花
- 栄ん来あくおほめ
- 死^しの由^{よし}をさういふ
- 母もあくふとなく

是等ハ六五^{つがひ}の番也

- 沙^さの^の双^{ふた}樹^{じゆ}は^はと^とり^り
- 大^{おほ}勢^{せい}あり^り進^{しん}か^か希^きあり
- 唯^{ただ}一人^{ひとり}石^{いし}を^を一^{いつ}あり
- 遠^{とほ}く^くの^の志^しを^をさ^さす^す
- 来^きる^るを^をあ^あく^くを^をき^きけ^けハ
- うち甲^かに^にか^かり^りといふ
- 頭^{あたま}ハ^は猿^{さる} 尾^{おしり}ハ^はち^ちあ^あハ
- 子^この^の方^{かた}を^をあ^あか^かし^しを^を

是等ハ六六^{つがひ}の番也

- 浄^{じやう}書^{しよ}所^{しよ}を^をう^うけ^けと^とま^まり^り
- 内^{うち}死^し骸^{がい}を^を見^みと^とま^まり^り
- 内^{うち}ち^ち慈^じ左^さい^いく^くと^とり

是等ハ六七^{つがひ}の番也

又

○ 妙多記ふま酒古き枕

○ 草徑り亡骨とあつ

○ 山河海村野田

○ 立まきれつ失路か

是等ハ拍子ヲ跨工合取分む以テ、能ク修練
せしハ諷ハ難カハ

謡と鼓と君臣之事

抑謡ハ君鼓ハ臣也鼓ハ謡もうかびて撃手も然あれ、後ハ所以

ふしそは也然まは拍子成之規と形し根本と立てんは時ハ

姑鼓が祢と成る君也此時謡ハ文字ヲ運動を屈伸して以て

鼓の拍子に合はるる故もあづく用と成又従ふ所次ありそはと

成是大鼓の道理也

初全く鼓を祢ふして君と一謡ハあづくそは後つて謡ハ
といふ場ハ彼曲舞のかり是也然もあきりハ祢ふとく安へ

所論謡ハ身拍子ハ影乃如くありそ離まきはとの也又云拍子といへ

は亦二拍ありそ一ハ諷ハ拍子そ二ハ打拍子也諷ハ拍子といハ

謡の祢ハ備りそは拍子也縦鼓ハ軽急といハ諷ハ此祢ハ備へ

そ輕拍子成心ハ踏ちう諷ハ也又亦拍子といハ謡の祢ハ備へ

拍子を別取取出し鼓も輕不が昂亦拍子也され亦依る謡ハ

おおく
熟得せしハ有ハかり

ヤノ間

十一文字ありて一字不足故ヤヲ借て一字分を足す
△ち△ふ△しま△んえたりや

頭字と
四字目とに 何と何

ヤノ間

十文字ありて二字不足故ヤノ借を借て二字分を足す
△か△ち△そ△め△のけ△さを△か△け

二字目と何と何

ヤノ間

九文字ありて三字不足故ヤハの借を借て三字分を足す
△ツ△そ△色△そ△も△ひ△の△も△と△乃

二字目と何と何

ヤノ間

八文字ありて四字不足故ヤハの借を借て四字分を足す
△△△△△△△△
×△△△△△△△
△△△△△△△△
×△△△△△△△
△△△△△△△△
×△△△△△△△
△△△△△△△△

頭字と何と何
と心得るや

右四通の大鼓乃声ハ強ク句讀息継くきういきつぎの亦ハ何々前句ハ尻乃しり

引曳ひき加減かへんを量りかはもの也是大鼓の職つとごと也 扱つか此掛かあハ別わかり

作つくり儲たくわけて後のちをふハ何々大鼓ハ生得なまル備つとりとはヤアヲハ乃

聲こゑふも短みじき声こゑハ上のヤ斗う也お伸のびふハもヤ哉やアと伸のび今いま入

伸のびふハヤアヲ也 章には是をヤヲと記しこれ花がふ 又今いま一吸ま増まく何々ん限

伸のびふハヤアヲハ也

向むかて云いはすの句尻くしり乃引曳ひきやうに長短ちやうたんの不同ちがハる謂いハるに

答こたへ云いはす編あの始は本地ほんちの決けつを述のべし 又今いま云いはす載のりかたかたと云いはす本地

一トサリ拍ひ子こハ十二文字じふに配くわ配あはる前まへの七文字しちハ大鼓おほづの領りやう分ぶん

後の五文字ハ小鼓乃領分也斯の如く本地を都合十二文字とは
 定むる也大鼓の領分も小鼓の領分もおのつら文字
 数乃不足が出来也まづ大鼓の領分において文字数の不足
 あり質成ひた奉ていそ前乃圖畫尔と出載とは如く

- ちくふーはと 六文字ありて一字不足也
- ○ かう深乃 五文字ありて二字不足也
- ○ ○ そとく 四文字ありて三字不足也
- ○ ○ ○ やかて 三文字ありて四字不足也

斯の如く四通尔品の替は不足あり

右の不足は成誤ひは決之事

文字に不足有る時經一字より其くわ地とてくう空虛尔ハなし
 是許々連ハ一字不足乃時ハ前句ハ福尔といふ五文字ハ尻を一字
 分引伸く息をつ継つ但一稀引伸むる不足の六文字ハつらあり是ハ
 別也此決ハ前句跨を記せしめありそれをん係へ此息成
 継あひ間へ入替りて大鼓ハヤ声が獨明かカル現出也次句ハ此ヤ声
 成頭尔是てヤちくふとと誤ひ出ル故尔都合七文字と成也又
 二字不足ハ前句ハ尻を二字分引伸居る内尔ヤアハ声が来は
 此ヤアハ声が遠の息継と入替は也
道理ハ斯の如くあれ都て此間ハ息合の福むつ、
 伸こまハ次句ハ出根おれつらありて依て前句
 の尻伸せうをせひ久後也に息成継てより都てヤ間ハ句尻を
 強く挿此ヤア間ハ伸せう成おしひかあると心得てよ
 切次句ハ此ヤアの尻を

お上頭守 木立合
酒
ヤ
○ハ
×
酒
△
△
○
○
○
○
○
○

頭尔是くかう深のと侃い出を都合七文字と成也亦三字不
足尔ハ前句其尻を二字分引伸居るひぎの内尔ヤッハ乃其声か来り
ハヤッハ乃其声其平尔息を捲次句ハ此ヤッハ其声を頭尔是てそむく
と侃い出は都合七文字と成也亦復四字不足尔ハ前句其尻を
四字分引伸居るひぎの内尔ヤッハの聲か来り此ヤッハの聲乃
末其ハと一爾息或捲次句ハ此ヤッハの聲を頭尔是て也かてと
侃い出は都合七文字と成 右四通其尔是理合同一事尔
一と次句其不足をハ前句の尻を引曳く以て是をもの也依く
文字不足の不同ハ其是凡其是と皆本地尔歸する者也



向て云品の替は筋ハ分明尔得させり但一右四通乃其尔と
文字其不足ハ省へ都合唯四通計尔限は決いに
答て云小鼓領分其不足ハ次下にて是をいむ大鼓の
領分中尔てハ右四通の最末其ヤッハ間をハ一名ツクス間といふ
大鼓領分中其聲或ヤアヲハと云ん限盡一切々此外ハ其聲
な一といふ是てツクス間と名付一欵是を以て考ふ尔論
はる小大鼓其声ハ次と四通尔限て満させり
但一鼓の多はく小鼓領
内へ聲込る者てせり
右の聲を同じく累かさね
とてはこ 依く此外にいづ文字其不足を
論を執る者なくは

ヤノ間之事

次、句一字不足也

五文字よりかほ

- 天満宮を紅乃ヤ ○ 浦を隔て乃ヤ
- 昆沙門堂の花ヤ ○ 出入人誨ヤ
- 無見頂お乃ヤ ○ まつを木よりヤ
- 我はまことヤ ○ 我はまことヤ

斯如く五文字よりかほハ前云々如く句尻を一字分引伸押カ息哉カ時ヤ声を聞カ次、句を出カ是通例也

四文字よりかほ

- 浄寺そ在ヤ ○ 浄寺そ在ヤ
- 力おヤ ○ 力おヤ
- 天はヤ ○ 天はヤ
- 浄幸ヤ ○ 浄幸ヤ

是等ハ四文字よりかほハ此四文字不足分一と次、句不足分一と都合文字ニ分カ或ハ四文字ハ尻カ引伸カ

六文字より以上ハ句カ讀息カ乃カヤノ間カ

但一六文字ハ不斗カハ小分カ其理カハ一と或ハ依カ今カ

微細

云む 六文字よりヤ間ルかほりハなき音あれた
強ク道理を付て説バあるこ此六文字といふもの、扱ハ持合伸ク
視ガ^ヒ得^ルの持前ニ扱ハ持合伸と云六文字ハ句尻と大鼓乃ヤ
あると一同ル形多ク依テヤある別ル間^ヲあしヤある有ク
無ク^キ如シ^キ色ナクに息継^キを礼ハ拍子^ニ尔後^ニカ^ル息を継^キ能^ク
以^テ此^ノ次^ノ句^ハ六^ノ文^ノ字^ハ方^ナり^テ顧^テ不^ル時^ハヤ^ノ間^トい^ヒて^テよ^クき^道理
あまハ此^ノ決^ヲを以^テ類^ノ例^ヲを^ハに^テ舉^ゲは^ス也

六文字より六文字へうつは

- 音城ヤ^ハ間^ハの^ハヤ^ハ唐人^ハあ^マハ^ハお^ハえ^ハを^ハヤ^ハ
- さ^ハハ^ハ歌^ハ尔^ハ渡^ハさ^ハと^ハヤ^ハ石^ハ尔^ハか^ハ進^ハ失^ハ尔^ハ多^ハり^ハヤ^ハ
- ヤ^ハハ^ハい^ハと^ハん^ハさ^ハは^ハま^ハに^ハと^ハヤ^ハマ^ハハ^ハ誰^ハり^ハ支^ハは^ハえ^ハと^ハヤ^ハ
- 音^ハ了^ハ持^ハ合^ハれ^ハ音^ハを^ハヤ^ハ音^ハ了^ハつ^ハつ^ハに^ハ水^ハの^ハ月^ハを^ハヤ^ハ

是等息継せし次句ハ六文字へ續ク
此類中老^シ持^合の決^ヲを記^セし^テ不^ルあ^リと^ハり^ハん^ハ合^ハ是^ニ

又右の格と似同^クなりヤ間息継の^ハ音^ハさ^ハは^ハもの

- 月^ハの^ハ都^ハを^ハ立^ハ出^ハて^ハヤ^ハ音^ハ城^ハか^ハへ^ハく^ハき^ハつ^ハ人^ハヤ^ハ
- 月^ハを^ハや^ハ再^ハ尔^ハを^ハあ^ハん^ハヤ^ハ音^ハ多^ハ羽^ハ色^ハん^ハと^ハり^ハヤ^ハ

○ 糸はり 糸はり

右は類ハ五文字節其う又字二ッ加りて七文字は分る事と
あり 畠地おけまハ息を継ぎ能ハ以て亦次句へ繋ぐ

又

○ 好文木とハ付く礼ま

○ 万天尔也は星はしく

○ 弓矢を取て私あー

是等ハ六文字節其持合なく約せそく五文字は分る事と
あせり 句尻ハ一字分引伸く押也

又

ヤノ間の不尔前句は尻を押と押さはとの差別あり

是ハ下巻尔也載と中巻と名付一節類あれハかこに出はき若あれた

今うたにヤノ間の類を挙し其類き故尔がく是を以てし

○ 智恵は矢をとけて 一度放せハ千は矢先

○ 渚尔ハ波のたそ 月尔たそむハ初乃光

○ 歌とんぐハ初とある 鹿ノ声と字一ハ

○ 人間の水ハ十間 星ハ北尔もんとくの

○ 松風ハ琴をたふる

此類の領解ハよく五文字はハ押伸ハ六文字七文字はハ押伸
成難し 是を以て解とと有知し

以上

ヤノ間は分る事一々

ヤアノ間之事

次句二字不足也

五文字よりかほ

○ 樂々此聲もせし ヤア

○ 岩間をばさふ ヤア

○ 扱人間尔 ヤア

○ 名ハ喜柳の朽木 ヤア

○ 色めく ヤア

○ 日と重なり ヤア

○ 思ひ出 ヤア

斯れゆく五文字よりかほハ前云く如句尻を二字分引伸て
ヤア此声の時息を継扱次句成出は是通例也

四文字よりかほ

○ 十八云乃よ ヤア

○ 讀里 ヤア

○ 泰山府君 ヤア

○ 扱と此 ヤア

○ 爰尔 ヤア

○ 此 ヤア

○ 故口 ヤア

○ さん ヤア

是等此四文字よりかほハ此四文字不足分一と次句此不足
分二と都合文字ニ分此四文字此尻を引伸也

六文字よりかほ

句尻を引伸る ヤア

○ 東風 ヤア

○ 稻 ヤア

○ 難波より好まき乃氣交不伸

○ 鬼大もまろと道不伸このを不伸

○ 新ハ北乃言不伸垢不伸

又
○ ヤス水の泡と好不伸

○ 洋下によりさ不伸ろは不伸

是等ハ女字に節おみ字加りて女字好分毫とあまり

斯乃如六文字よりかほふハ句尻を引伸ふりあり難し

扱又句毎ルヤア間果ありて句尻を引伸ふと伸さふとの差

別有り是ハ右ル舉し五文字と六文字と好交不伸る也

○ 善哉の道を好不伸ふハ松風の吹とて不伸業障乃

落不伸空ハ不伸まほり不伸り不伸に不伸な不伸し

○ 中かば散そ垢不伸お不伸花と不伸う不伸風と不伸つ不伸り

○ 既不伸知不伸軍不伸明日不伸ル不伸キ不伸ハ不伸まり不伸ぬ不伸

○ 誰とハあとも不伸急不伸ち不伸り不伸よ不伸ハ不伸了不伸そ不伸来不伸た不伸ま不伸と

○ 揺を好ぬ人不伸ハ不伸好不伸き不伸花不伸衣不伸き不伸ふ不伸り不伸ふ不伸時不伸と不伸日不伸も不伸月不伸も不伸好不伸生不伸

餘ハ准知トスル

七文字よりかほハ 程スル句尻を伸ぶ事成絶

○浦ハの眺めまをて矣ヤ ○う起進江流と凌ぎ来て此ヤ

○あしに秋の美事此也ヤ

又

○面白やんほらんヤ ○よほハ月をことごとくぬあり也ヤ

○光の波とかほやんヤ

是等ハ六文字ありみ字加りて七文字此分事とあま

又

○あけりし船の名跡ありヤ ○定めぬき力たゆんヤ

○あかたすく有絶ヤ ○音羽の流乃ち系ヤ

○余のふもやかほらんヤ ○よみあしつらんヤ

○音に比へて理詰結ヤ ○あしりねる一もふヤ

○草花戸さしヤ 是ハ六文字あれ約とせし七文字此分事と成
七文字にみ字加りて七文字此分事とあま

是等ハ五文字ありみ字加りて七文字此分事とあま

八文字よりかほ

○生てお娘死して乃悦ヤ ○子成思ふて籠の中ヤ

○まき乃夜と志いヤ

右等七文字八文字よりかほハ句尻を引伸ぶ事
文尔成絶 餘と倣之

次と

ヤアノ間分畧して畢

ヤラノ間之事

次句三字不足也

五文字よりかほ

- 古今女色浅尺_{ヤラ} ○ ともを深か_{ヤラ}
- 都と字ハあ_{ヤラ}い_{ヤラ}り_{ヤラ}や ○ 契_{ヤラ}一人_{ヤラ}の_{ヤラ}数_{ヤラ}ル_{ヤラ}
- 関_{ヤラ}の_{ヤラ}法_{ヤラ}有_{ヤラ}ル_{ヤラ}乳_{ヤラ}尺_{ヤラ}ゆる_{ヤラ}

斯乃如く五文字よりかほハ前云が如く句尻を二字分引伸くヤツの^{モウリ}声乃^{モウリ}息を^{モウリ}次句浅出^{モウリ}は是通例也

四文字よりかほ

- いとと_{ヤラ}か_{ヤラ}こ_{ヤラ}かり_{ヤラ}利_{ヤラ} ○ きみ_{ヤラ}尔_{ヤラ}す_{ヤラ}む_{ヤラ}と_{ヤラ}去_{ヤラ}り_{ヤラ}
- 長_{ヤラ}閑_{ヤラ}ふ_{ヤラ}頼_{ヤラ}浦_{ヤラ}の_{ヤラ}五_{ヤラ}格_{ヤラ} ○ 銘_{ヤラ}の_{ヤラ}志_{ヤラ}と_{ヤラ}手_{ヤラ}形_{ヤラ}入_{ヤラ}り_{ヤラ}
- 姉_{ヤラ}かく_{ヤラ}も_{ヤラ}り_{ヤラ}み_{ヤラ}中_{ヤラ}せ_{ヤラ}ハ_{ヤラ} ○ 手_{ヤラ}お_{ヤラ}り_{ヤラ}ふ_{ヤラ}始_{ヤラ}ち_{ヤラ}る_{ヤラ}へ_{ヤラ}り_{ヤラ}

是等^{モウリ}四文字よりかほハ此四文字^{モウリ}不足^{モウリ}分^{モウリ}と^{モウリ}次句^{モウリ}の^{モウリ}不足^{モウリ}分^{モウリ}と^{モウリ}都合^{モウリ}文字^{モウリ}四^{モウリ}分^{モウリ}浅^{モウリ}ハ^{モウリ}四^{モウリ}文字^{モウリ}乃^{モウリ}尻^{モウリ}有^{モウリ}て^{モウリ}引^{モウリ}伸^{モウリ}也^{モウリ}

六文字よりかほ

- 牛_{ヤラ}し_{ヤラ}乃_{ヤラ}父_{ヤラ}と_{ヤラ}多_{ヤラ}也_{ヤラ} ○ 梧_{ヤラ}竹_{ヤラ}尔_{ヤラ}飛_{ヤラ}く_{ヤラ}く_{ヤラ}り_{ヤラ}て_{ヤラ}

○ 予さぬ神と之形^ヨ棹^マの

○ 阿はれ昔哉思ひ^ヨ妻^マの

○ 故^マ人^ハ乃^ハを^ハ一^ハへ^ハな^ハま^ハい^ハ

○ 又 山^マ風^マ尔^マら^マね^マ花^マま^マを^マ色^マ

○ い^マに^マと^マて^マり^マ世^マ生^マり^マ

○ 名^マ姓^マを^マい^マ乃^マお^マさ^マり^マつ^マき^マ

是等ハ五文字ル節ノうみ字加りて六文字ル分節とあまり

○ 又 千^マ秋^マ也^マ又^マと^マり^マ成^マり^マて^マ

○ 六^マ分^マ餘^マ孫^マを^マ二^マに^マ分^マて^マ

○ 時^マう^マり^マ氣^マ色^マ變^マへ^マて^マ

是等ハ七文字ル分節とあまり縮めて六文字ル分節とあまり

右は類六文字よりかほハ二字分を引曳は道理のやうなを
此六文字中に持合伸とほふはハ句尻ハ一字分引伸てよき

七文字よりかほ

○ 流^マ生^マ阿^マま^マハ^マ山^マ姥^マも^マあり^マ

此句尻の節ハ字竟次句は文字数少きが故ハ句尻を引伸ハ夫の從縁を便に付し節あまハ此うみ字ハ七文字ル分節を入依てうみ字ル分節を引伸て成節

○ 下^マ化^マ流^マ生^マ相^マも^マ得^マり^マ

是と右と同一振合也

○ 又 知^マ差^マを^マぬ^マさ^マ神^マを^マも^マ

○ 誰^マう^マ是^マ哉^マほ^マめ^マさ^マん^マ

○ 浦^マの^マ秋^マ乃^マ氣^マを^マも^マ

○ 之^マよ^マ法^マ乃^マ氣^マを^マ

○ 新^マ神^マひ^マと^マい^マふ^マ阿^マま^マい^マ

○ 杉^マの^マ下^マ枝^マと^マ浦^マり^マ

○ 縁^マ樹^マ法^マを^マも^マ
○ 波^マ人^マを^マも^マ

- 姉さけんはと詠事ヲ
- 教のまゝ形るんヲ
- 力成接く一我後記也ヲ
- 奥と迷ハ一嘆ヲ
- 枯るるにヲ

是等ハ五文字亦節如うみ字加りて七文字也ヲ

右等如七文字ヲハ句尻成文字一ヲ分引伸也

以上

ヤヲノ間ヲ分畧して畢

ヤヲノ間之事

次句四字不足也

五文字ヲハ

○ 條をあらさぬ清代也ヲ

○ 漢也秋乃と歸り形ヲ

○ 昔乃枯葉亦風渡ヲ

○ 奈ふの都を立出ヲ

○ んそかも我ハヲ

斯如く五文字ヲハ前云々如く句尻を四字分引伸く
ヤツハのハ乃声と一ヲ想切次句成出は是通例也

四文字ヲハ

○ 感應ヲハ

○ 心管弦の清遊ヲ

○ 終るいはしく喜柳の^{マヨハ}

是等ハ五文字に節のうみ字加りて七文字は分量とあまう

右七文字よりかはるハ句尻を文字二つ分引伸は也

八文字は分量よりかは

○ 面白やま^{マヨハ} 誰とかく^{マヨハ}

○ 誰とかく^{マヨハ} せむへ^{マヨハ}

○ せむへ^{マヨハ} と^{マヨハ} 道^{マヨハ} 進^{マヨハ} 進^{マヨハ} 進^{マヨハ}

是等ハ文字二つ分引伸り也

右の如く文字数多き分量なりといへば此ヤハ八回ハ次句は
文字数を長く且大鼓の声と長けはハ句尻を^{マヨハ} せむへと
引曳はハなり 但し

○ 下ハ川浪と^{マヨハ} 下^{マヨハ} 下^{マヨハ} 下^{マヨハ}

此一種ハ九文字は分量なりハ引曳なり成語

以上

ヤヤアヤラヤハ四通へ^{マヨハ} 格之事

畧して畢

本地トリ行地ヲクリ四通リ拍子之決

本地の決ハ此編の始リ
委去載されハ本に再
贅せに

△	△	△	△
×	×	×	×
△	△	△	△
×	×	×	×
○	○	○	○
×	×	×	×
○	○	○	○

トリハ本地の半減也依テ拍子数之四倍ノ文字数ニ六也
大小俱ル本地の半減ル撃也依テトリを二度累
ぬルハ本地と成也

△	△	△	△
×	×	×	×
○	○	○	○
×	×	×	×
○	○	○	○
×	×	×	×
○	○	○	○

行地ハ大鼓の方斗半減ル一ト小鼓の方ハ
本地也大鼓の軽方ハトリの軽格と同格也
元来大鼓領分此注の文字数ニ不足也
此故ル拍子代と二粒減一と云也

△	△	△	△
×	×	×	×
△	△	△	△
×	×	×	×
○	○	○	○
×	×	×	×
○	○	○	○

ヲクリハ大小俱ル始ハ本地ル撃テ小鼓の方斗尻リ
二粒餘分を添付也元来小鼓領分此文字数ニ
剩まる故ル拍子をも二粒増と云也

本地の拍子之事

此編の始ル去載と云りぬ

トリの拍子之事

具ルハヒツトリと云也本地の拍子代半減子いつとリ
約と云ル所ハ新ノ吹平生にハそれを略テトリと云也

此トリは拍子にうつはる本地よりうけると又ヤヤヤヤの
四通よりうつはると五通は差別ある注の扱とそましく
品替まり依くも扱乃差別を分明ふに

本地のトリ

注の扱之事ヒトリは拍子ハ下并りのま減ふまハ文字数六也
四字目を緩ゆる持合伸て次の五文字と六文字と二乃文字を
並へく是尔小鼓の勢トリは二粒を詰る也前の圖畫に出載
とゆや一是が都くトリは拍子乃生得持前也但し右扱の持合

キ格合とあり次下も場和に是等或と分明ふれをんるへ

- 志^トり^トお^トる^トい^ト家
- 夕^ト日^トや^トむ^ト那^トの
- む^トか^トし^トな^トら^トら^トお
- 志^トの^トお^トら^トみ^トさ^トし
- 志^トの^トち^トら^ト人^トま^トあ
- つ^トり^トさ^トく^トら^トみ^トを

○ 内^ト自^ト愛^トお^トて

是ハ節ゆうみ字をけきハ愛のい文字或伸く持合(記)ふるを
知文字に節を付さゆうみ字何まハ持合伸とゆと同格也
文字数ハ七文字 此分をゆうと信せてハ文字此分と分格

○ 臨^トん^トて^トた^トま^トい^トを^トけ^トし

是と節を付されハを文字或伸く持合へきを
け文字にうみ字何まハ持合伸とるを同格也

又トリは 六文字と 七文字と へうつり續く前句尔品しれ替り目あり

六文字が分るよりトリが六文字へ続く

○ 惟^一光^二尔^三志^四そ^五く^六ぬ^七て

是ハ惟光の四文字に持合此伸上合と此は節乃
う又字と二に分かりて六文字の分をともま

五文字が分るよりトリの六文字へ続く

○ う^一い^二と^三や^四せ^五ん^六は^七ら^八ほ^九り^十と

是ハうつとやせの六文字成縮よせて
五文字が分るとあせり

五文字よりトリが六文字へうつは

○ 六^一が^二下^三の^四水^五尔^六う^七ま^八は

是ハ六が下の此五文字が息を継ぎきを此は節の
う又字はが尔息を継ぎ六文字へ続けよは也

五文字よりトリの七文字へ続く

○ 是^一れ^二ハ^三又^四一^五恩^六愛^七が^八申

是ハう又字を加へて八文字形を縮よせて
七文字が分るとあせり此う又字が持合の分也

四文字よりトリが七文字へ続く

○ 臨^一ん^二て^三た^四ま^五し^六い^七を^八け^九し

此二種とう又字加りて八文字あるは縮よせて
七文字が分るとあせり

○ 我^一朝^二一^三二^四國^五尔^六渡^七里

右が外あと斯れが記振合はるん治るよへ

斯れが如く本地がトリハ六文字あるが故か何とと持合伸はる

是通例也

又六文字と六文字とトリ成田系手とは

○ 普^一天^二の^三下^四の^五卒^六古^七が^八ら^九ー
○ 内^一尔^二ハ^三又^四一^五花^六を^七風^八月^九の

是ハ持合なし

ヤ、間のトリ

注乃扱之事ヤ、間のトリは五文字尔限り持合をたれりあり
四字目と息継の坪とニヶ前が小鼓の舞トリはほりり亦也

- ヤ 旅衣、末、はく、の
- ヤ 我人、ま、ま、ま、ま、の
- ヤ 山寺の、ま、ま、ま、ま、ま
- ヤ 紫乃、ひ、も、を、ひ、は
- ヤ 秋と、ま、ま、ま、ま、ま
- ヤ 信吉の、ま、ま、ま、ま、ま
- ヤ 祐尔、ま、ま、ま、ま、ま
- ヤ 船子、ま、ま、ま、ま、ま

斯乃が五文字は場尔限り持合は、
是通例也

又

六文字よりトリは五文字へ續く、
息継ハ、ナ、ケ、キ、カ、ヤ、間、の、格、也

- 出、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま
- 木、あ、り、と、ま、ま、ま、ま、ま
- き、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

此木ありとてハ五文字おれは節の、
六文字は分をとちまら

此凡そといふハ文字を運ひよせて付、
うみ字おれハ文字教ハ、ち、ま、ら、さ、ゆ、也

此六文字中、
は、節、ハ、文字、数、二、の、分、を、お、れ、
は、節、分、の、二、を、お、れ、
よ、せ、て、元、乃、六、文、字、の、分、を、と、ち、ま、せ、り

- 同、一、神、ま、ま、ま、ま、ま
- ヤ、月、ま、ま、ま、ま、ま

- ヤ、公、明、ま、ま、ま、ま、ま

又

是等ハ五文字形を去り即チ六字加りて六文字形を成すと云ふ
と云ハ持合伸合也

○ヤハ川を、おん流く

斯乃如く合六文字形をハ持合へ此事勿論也

ヤア間のトリ

注乃扱之事二字同、或緩やうに持合て三四文字ニツ成
並へく小鼓の勢トリ合也

○ヤ洛陽^ハ南の山^ハ高き
○ヤ隆^ハ準^ハ鼻

○ヤ王城^ハの鬼門^ハを

○ヤ弓^ハ箭^ハの道^ハ
○ヤ生^ハ疑^ハの海^ハ山^ハを

○ヤ水^ハとハ山^ハ陰^ハの
○ヤ一^ハさ^ハひ^ハハおと^ハある

○ヤさ^ハり^ハきた^ハる^ハほ^ハと^ハなり^ハに
○ヤ一^ハ門^ハハ^ハ氣^ハ成^ハ矢^ハい

○ヤ西^ハ海^ハの波^ハ浪^ハを

○ヤ村^ハ面^ハの^ハ如^ハく^ハる^ハを^ハ伝^ハ
○ヤい^ハら^ハあ^ハま^ハハ^ハ子^ハハ^ハ親^ハの^ハ考^ハ

○ヤ^ハま^ハを^ハか^ハり^ハ向^ハひ^ハの

○ヤ^ハ霊^ハ山^ハの^ハ釈^ハ迦^ハ乃^ハ
○ヤか^ハ那^ハひ^ハの^ハ玉^ハ子^ハを

○ヤ^ハ浪^ハ風^ハを^ハま^ハま^ハを^ハそ^ハく

此ヤア間のトリハ餘り多かりぬも此こまら此類也

初二姉らつた文字、成並へく小鼓の軽トリル合せ二字目を伸は也

- ヤハ 寝ハおけとを
- ヤハ いへをもろまて
- ヤハ ナハかたそ
- ヤハ ナハのてかいは乃
- ヤハ キハとぬあり
- ヤハ 運のきハん
- ヤハ 都ハハ西都ル。角を清むる
- ヤハ 比ハ睦月乃
- ヤハ 上ハ草花の
- ヤハ 延ハの昔屋ル
- ヤハ おけの衣と
- ヤハ 歎き結と
- ヤハ 相坂のハかく

何まも七文字也

又ヤハハ間のトリに二字目を伸はる中成難きものあり

謡乃扱之事 頭ハ文字ハ半ガシ後やうに小鼓乃軽トリル合せ
二字目ハ伸はるを也ルニ字目ハうつは

- ヤハ 我ハ天祿の
- ヤハ 祢ハ一美ふと
- ヤハ 舟ハとナハれく
- ヤハ 比ハまの逆鋒と
- ヤハ 我ハ木花と也
- ヤハ 阿ハハ松と
- ヤハ ちハル。まハハ
- ヤハ 魄ハハ増屋と也

問て云文字三不足其決何と是を辨へん也

- ふとつのおは。我新ニニニニちとニニニ狂ニニニ
- さかんあまハ一花の色ニニニ成ニニニましニニニ
- 秋来ニニニいニニニくニニニアニニニ花散ニニニしニニニ葉ニニニおニニニつニニニ
- 紅ニニニ花ニニニのニニニ舞ニニニ如ニニニあニニニしニニニ
- 櫓ニニニのニニニもニニニとニニニにニニニ。紅ニニニ葉ニニニをニニニ去ニニニきニニニ
- 道ニニニとニニニかニニニやニニニ。唯ニニニ是ニニニかニニニくニニニハニニニ
- 生死ニニニ流ニニニ浪ニニニのニニニ頭ニニニ磨ニニニ乃ニニニ浦ニニニをニニニ出ニニニくニニニ。四ニニニ智ニニニ名ニニニ明ニニニ也ニニニ。

是等其類也

答て云 ふとつのおは。むり。我新ニニニちとニニニ狂ニニニ 又 さかんあまハ一梅ニニニ乃ニニニ花ニニニをニニニ成ニニニましニニニとニニニ如ニニニ如ニニニくニニニ文字ニニニ成ニニニ三ニニニ加ニニニふニニニまニニニハ大鼓ニニニのニニニ領ニニニ分ニニニ七ニニニ文ニニニ字ニニニとニニニ成ニニニてニニニ本ニニニ地ニニニ尔ニニニ降ニニニをニニニ是ニニニをニニニ以ニニニくニニニ知ニニニ海ニニニへニニニ

ヲクリの拍子之事

ヲクリといふ名目ハ本地の尻尔餘分ヲ拍子成付送は爾ヲクリと云歟

ヲクリといふ拍子ハ小鼓領分おと涼の文字数三ニニニ多ニニニきニニニ故ニニニ尔ニニニ拍子成と二粒増ニニニふニニニとのニニニガニニニヲクリ也ニニニ并ニニニ乃ニニニ圖畫ニニニ尔ニニニ出ニニニ載ニニニとニニニはニニニくニニニ也ニニニ

○ 納ニニニ文ニニニしニニニ。地ニニニ神ニニニとニニニ感ニニニ應ニニニ也ニニニ

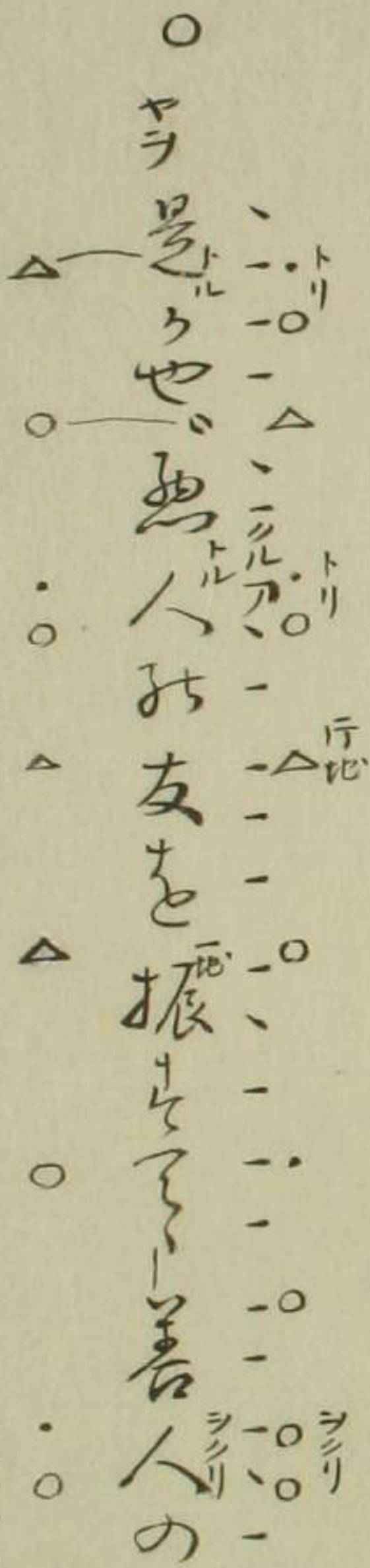
- 立かられし志賀の、言路り
- うき水。己のうらハ。
- 名おとめをまねハ
- 梓さして一五湖乃。
- 人 間一士のせふ
- ひにけいといつまを
- 光陰一をうらても

是等其類也

問て云文字三多き決何と是成辨へんや
 答て云納文し。と感應の又立かぬく言路尔と斯乃ぬく
 地祇三文字志賀の三文字を除けハ大鼓の領分七文字と
 成て本地尔帰を是成以く知海へー

扱此シクリヲ拍子付右に禁し外尔節博士の故乃シクリと
 いふ格を分明せり下卷尔至てヤ間尔似てヤ間に何々
 さほとのと標せー不尔載りそま成ん海へー

扱此斤地とシクリと其途一方ハ不足一方ハ是也依る
 此不足成米ぬまハ昂本地間尔還帰す



ヤラ此序を思召けハ斤地のちかーと成ル何まふてと同事也

新九郎寺方是也

斯のぐくトリ成二累てて本地と成斤地シクリ成米てて又本地と成也

以と

本地トリ行地ヲクリ四通^リ拍子之訣

畧^シ之^ヲ畢

